

Architects' style

建築士 こおりやま

No.63 令和2年3月発行

施設見学ツアー—2019に参加して

昨年の11月9日に行われた施設見学ツアー。台風で甚大な被害に見舞われた約1カ月後だったので支部長はじめ会員拡大交流委員会の方も決行するか迷われたようですが、被災された会員の方が「気晴らしに行きたい」の一言で開催が決行されました。車中で紅葉も楽しめ、気晴らしにはもってこいの雲一つない秋晴れの日。見学場所は栃木県にある隈研吾さん設計の建物巡りです。

須賀川市の乙字ヶ滝の「乙字亭」(今は売り物件になっています)→栃木県那須郡の「石の美術館」→「那須歴史探訪館」→「那珂川町馬頭広重美術館」→栃木県塩谷郡「宝積寺駅」と5か所を見学しましたが、どれも隈研吾さんと分かる特徴のある設計でした。見学した中で一番記憶に残ったのが、石の美術館です。大正末期～昭和初期に建てられた農協の米蔵として使用され、その後放置され荒廃していましたが、民間の会社で町興しや地域活性化を目的と今の石の美術館がスタートしました。石から光が透ける表現の仕方には驚きました。那須歴史探訪館では感謝祭のイベントで野点が行われていて、抹茶と茶菓子を頂いてきました。

隈研吾さん一色で、少しおなかがいっぱいになりましたが楽しい見学ツアーでした。



全国大会 北海道大会

令和元年9月21日から22日、第62回建築士会全国大会「北海道大会」が、北海道函館市函館アリーナをメイン会場として、「Re+」^{リクロス}「明日のまちに輝きを」^{みらい}をテーマに、記念講演、大会式典、交流会、5コースの地域交流見学会が開催されました。

郡山支部からは総勢19名が参加し、21日から23日の日程で函館市と盛岡市を巡ってきました。

21日は郡山駅発8時31分の新幹線に乗車し、仙台駅にて北海道新幹線に乗り換え青森、青函トンネルを経て13時前には函館駅に到着しました。会場の函館アリーナへは路面電車で向かいました。会場の函館アリーナは楕円形のメインアリーナとサブアリーナの2棟を中央のホールで繋げ、多目的に使用可能な複合施設でした。

大会式典は、開会宣言、開催地会長の挨拶で始まり、国歌斉唱、挨拶、祝辞と続き、表彰式、大会アピール、次期開催地の広島県建築士会に大会旗の引継ぎ及び会長の挨拶後、閉会になりました。会場を後に五稜郭近くのホテルに宿泊しました。

2日目の22日は貸切バスに乗車し、五稜郭、カトリック元町教会、函館ハリストス正教会等の歴史的建造物街並の視察を行いました。異国の文化を身近に感じ、地域全体で近代と現代の建物が保存されていることに不思議を覚えました。昼食後北海道新幹線に乗車し岩手県盛岡市へと向かいました。盛岡へは夕方に到着し駅近くのホテルに宿泊しました。



最終日23日は貸切バスにて、岩手県立美術館、盛岡市先人記念館、いわて県民情報交流センター、岩手銀行赤レンガ館、盛岡信用金庫本店、もりおか啄木賢次青春館、もりおか歴史文化館の視察をおこないました。



今回、函館市、盛岡市と視察させていただき、建物を生かした街づくり及び街の活性化を肌で感じたように思います。新しい建物も大事ですが古き良い伝統的な建物を大切に後世に残していくということを改めて思い知らされ、これから活動していく上で、どうするかを考える良い機会だと思いました。

今回、企画・準備・運営等に携わって頂いた役員の方々に感謝申し上げます。

『子ども職業体験事業ジョブキッズ郡山2019』への参加 ～お菓子の家づくり～

去る10月12日（土）、「ビッグパレットふくしま」において、郡山商工会議所青年部が主催する『子ども職業体験事業ジョブキッズ郡山2019』に、青年・総務合同委員会で参加した。当日は、「めざせ！お菓子の家建築士」と題して、建築士と子どもたちが、実務さながらのお菓子の家づくり体験を行った。参加した多くの子どもたちへは、建築士として、創造することやモノづくりの大切さを伝えることが出来たと共に、保護者様等へは建築士会を大いにPRする機会ともなった。非常に良い事業なので機会があれば、是非来年も参加したいと思う。



忘年会



台風19号 災害ボランティア活動体験記

令和元年10月12日、台風19号によって信州及び東北の広い地域に甚大な被害が発生しました。福島県は阿武隈水系の須賀川、郡山、本宮等が特に大きな被害を受けました。建築士会事務局からボランティアの参加の要請があり、事前に日本大学のボランティアセンターに赴きました。本部にてお話を伺うと、スコップ等の道具や備品は全て揃っているの、雨具と昼食の弁当を持参するだけで良いとの事でした。家に戻り集合場所について士会事務局に連絡した所、ボランティア活動に参加するのは私だけと言われ一寸がっかりしました。

ボランティア活動初日。この日はボランティアの方が50人程集まっていました。私は最年長の参加者です。作業グループは4人で編成され、活動地点まで徒歩にて移動しました。被災されたのは80歳位のご夫妻で、木造平屋建ての住宅、床上約1.2mの浸水被害でした。理容店も営んでおられ、ご本人も何をどうしたら良いか悩んでおられました。我々は黙って指示を待ちました。しばらくして、天気が良いので、家具・家財を一旦搬出し、畳を処分する事となりました。しかし、濡れた畳はとても重く私の出番はありません。畳の搬出後、床板の泥拭き、泥の袋詰めと作業をしましたが、マスクを着用していたのでとても暑く、息苦しくて外に出てしまいました。午後からは別の住宅へと移動し、ほぼ似たような作業をしました。4時30分に作業が終了して道具類を返却し、作業報告後に解散となりました。それから3日間ボランティア活動をしました。

私の他にボランティアに来てくださった方々は、千葉県・山形県・九州といった遠い所からの方で、駐車場で車中泊していました。また、土・日は矢吹・会津の役場の方々が数人のグループで参加していました。被災者はほとんどが高齢のご夫妻で、住まいは木造平屋建て、多くが床下1.0m以上の浸水でした。車も使えない、食事も寝る所もままならない——。ボランティアは処分する物品の搬出、泥の袋詰め、清掃で終わってしまいます。しかし、汚れ部分の解体・洗浄・リフォーム、あるいは、建替え、資金繰りと時間と心労がかかる事が沢山残っています。胸がとても痛みましたが、作業後に『ありがとう、助かりました』と笑って頂いたことがせめてもの救いでした。

2月23日にボランティア活動した近辺を改めて見てきました。まだ災害ゴミが残っていたり乗用車も放置されていたりしました。私が作業した住宅は一応きれいに片付いてはいましたが、内部までは分かりません。壁や床にしみついた汚水・汚泥の処理をどうされたのか、細菌等の発生等がなければ良いがと思いながら見てきました。被災された方々がいつになったら普通の生活に戻れるのだろうか…4ヶ月経った今も心配が尽きません。(佐々木 忠雄)

編集後記

建築士試験制度が大きく変わる、卒業後すぐに受験が可能になり、実務経験が認定されれば免許証が発行される事となる。クオリティを下げること無いと事なので、あくまでも受験者数を底上げすることが目的の様だ。そこで企業側は入社後3か月間の新入社員研修を建築士試験対策に変更し、その後に実務経験を積ませるスケジュールを取り入れようとしているとの

話を聞いた。建築士の平均年齢は56歳との事、若い世代がこれからの時代を創っていける試験制度、企業環境、雇用制度の実現をめざしたい。

福島県建築士会郡山支部

郡山市大町一丁目2番23号KIK'ビルW22(西2階) TEL & FAX 935-2151
URL : <http://kenchikushi-koriyama.com/>
Mail : info@kenchikushi-koriyama.com